

マテオ・リッチ書簡集(『利瑪竇書信集』) 訳注稿(三)

安部 力

はじめに

本訳稿は、一六世紀(明朝末期)に始まる東アジア地域へのカトリック・キリスト教宣教師、特にイエズス会士の活動において、大きな先駆的役割を果たしたマテオ・リッチ(中国名は利瑪竇、イタリア人、1552~1610)が残した書簡に関する試訳(1)の続編である。前稿(2)では、書簡「四」が紙幅の都合上「前半部」で終わっており、本稿がその続訳になっていることから、連続した文章として理解するためにも、前稿を参照されたい。

また、訳注作業の目的・意図などは既に拙稿「(一)」「冒頭において説明している(2)」が、本作業が念頭に置いている「典札問題の内実」に関して、中国共産党政府とバチカン教皇庁との間で大きな動きがあったことについて(3)、論文末に【付論】として私見を述べさせて頂いていることをあらかじめお断りしておきたい。

【凡例】

- ・底本：『利瑪竇書信集(上)』(下)、『利瑪竇全集』(3) (4)、羅漁訳、(台北光啓文化事業、1986(中華民國75)年)
- ・今回使用した底本の訳者である羅漁氏は、台湾の代表的なカトリック系大学である輔仁大学の教授を務められた方であり、中国明末清初期における天主教研究の専門家である。
- ・リッチを始めとするヨーロッパ人神父などの人名表記については、これまでの研究に於いても一定していない。それは、中国語音を元にした漢字訳表記が揺れていることから分かるが、どの言語(ラテン語かイタリア語かなど)の読み・表記を採用するかにも関わっており、本訳稿でも表記が揺れていることがある点はご承知おき頂きたい。(例えば、矢沢本ではリッチは「マッテオ」であり、平川本では「マッテオ」となっている。更に後藤基巴氏や柴田篤氏の『天主実義』では「マテオ」となっている。本訳稿では、主要な人物名表記について、確認できる範囲では原則として『イエズス会の歴史』(ウイリアム・バンガート著、上智大学中世思想研究所監修、原書房、2004年)の人名表記(ヴァリニャーノ、アクアヴィヴァなど)に従うこととした。(但し、バンガートはリッチの漢名表記を「李瑪竇」(同書 194頁)としている)

【主要参考文献】(煩を避けて主要なもののみとした)

- ・『マッテオ・リッチ伝1~3』(平川祐弘著、1・東洋文庫1141、1969年、2・東洋文庫624、1997年、3・東洋文庫627、1997年、平凡社)

- ・『中国キリスト教布教史』(二)『大航海時代叢書』第II期 第8~9巻所収、マッテオ・リッチ著、川名公平訳、1982年、岩波書店)
- ・『イエズス会士中国書簡集1~6』(矢沢利彦編訳、1康熙編…東洋文庫175・1970年、2雍正編…東洋文庫190・1971年、3乾隆編…東洋文庫210・1972年、4社会編…東洋文庫230・1973年、5紀行編…東洋文庫251・1974年、6信仰編…東洋文庫263・1974年、平凡社)
- ・『中国の布教と迫害―イエズス会士書簡集』(矢沢利彦編訳、東洋文庫370平凡社、1980年)
- ・『天主実義』(柴田篤著、東洋文庫728、平凡社、2004年)
- ・『イエズス会会憲』付会憲補足規定、イエズス会日本管区編訳、南窓社、2011年)
- ・『利瑪竇伝』(羅光著、光啓出版社、1960年)
- ・『聖經人物詞典』(Peter Calvoressi 著、仲掌聖、暁暉編訳、上海人民出版社、1990年)
- ・『在華耶穌會士列伝及書目』(費賴之(Aloys Pfister) 著、馮承鈞訳、中華書局出版、1995年)
- ・『中国天主教史人物伝』(方豪著、台中光啓出版社、天主教上海教区光啓出版社発行、2003年)

【注】

- (1)『マテオ・リッチ書簡集』(『利瑪竇書信集』) 訳注稿(二)、『北九州工業高等専門学校校研究報告』第51号 平成三十年、「マテオ・リッチ書簡集(『利瑪竇書信集』) 訳注稿(一)』(『北九州工業高等専門学校校研究報告』第50号 平成二十九年)。その他、本件に先行するマテオ・リッチに関するテーマを扱った訳者の成果としては、『天主初函』における『職方外紀』の位置が示すこと、『哲学資源としての中国思想―吉田公平教授退休記念論集』所収、吉田公平教授退休記念論集刊行会編著、研文出版、2013年3月)があり、その展開例を台湾に於いて見いだそうとした成果が以下の一連の報告群である。「台湾におけるカトリック・キリスト教信者の宗教意識に関する一考察(一)―祖先祭祀をめぐる問題」(『北九州工業高等専門学校校研究報告』第41号、平成二〇年)、「台湾におけるカトリック・キリスト教信者の宗教意識に関する一考察(二)―天后聖母について」(『北九州工業高等専門学校校研究報告』第42号、平成二十一年)、「台湾におけるカトリック・キリスト教信者の宗教意識に関する一考察(三)―現地調査における現状と課題」(『北九州工業高等専門学校校研究報告』第45号、平成二十四年)、「台湾におけるカトリック・キリスト教信者の宗教意識に関する一考察(四)―図・像を中心に(一)―」(『北九州工業高等専門学校校研究報告』第48号、平成二十七年)、「台湾におけるカトリック・キリスト教信者の宗教意識に関する一考察(五)―建築様式及び装飾備品を中心に(一)―」(『北九州工業高等専門学校校研究報告』第49号 平成二十八年)。また、前稿作成後、東洋文庫蔵『Opera storiche del P. Matteo Ricci S.I.』(Pietro Tacchi Venturi) を目にするのが出来、本書簡集に

関連する内容の確認を行った。(この点については、既に前掲『キリスト教布教史』623頁に言及がある。)

(2) 現在、科学研究費補助金(基盤C)の助成を受け、課題名「16世紀来華イエズス会士による異文化対応の諸相―「利瑪竇的規矩」の内実と展開―」による研究を進めており、この課題名にある「利瑪竇的規矩」の内実を探る一環として、本訳稿作業が位置づけられている。なお、「利瑪竇的規矩」は現在の台湾などでは「利瑪竇規矩」と「的」が省略されることもあるが、本稿では康熙帝の文書に従い「利瑪竇的規矩」としている。

(3) 「大きな動き」とは、「パチカンが中国と調印 司教任命で「暫定合意」(『カトリック新聞』2018年9月30日及び10月7日分)のことである。この「司教任命権」がどのような影響を及ぼすのかは、賛否両論があるが、明朝から清朝にかけての典札問題を扱う視点から検討を加えてみたい。

『マテオ・リッチ書簡集』訳注稿 本文

【和訳】

4、リッチよりスペイン税務司長ロマン先生へ

(承前稿)

都市については何から言えば良いでしょうか。壮麗で大きく、人口が多いという点では私達ヨーロッパの方がもしかしたら優位かも知れませんが、華麗さという点では彼らに少し劣るかも知れません。しかし、これは広東省だけを比べてみたもので、この地は元々犯罪者の流刑地であったのです。私は「府」と呼ばれる都市を見ましたが、それらの間には距離が均等に置かれ、又「州」と呼ばれるものもあり、それは各郷村などで分けられている様子からして、中国全体はまるで一人の数字者が考え、コンパスを使って計ったようにそれぞれの村や都市が配置されています。小を以て大を図れば、小さな農村や都市はこのように数多いのですから、中国全体はまるでこれ以上ない大きさの大都市であるとも言えます。人々は都市の壮麗さはどうだ、と言います。その外の省に関しては私はこう思います、他の省の中でも、皇帝の居る北京や、昔の都であり、一時期には皇帝もいた南京は特に素晴らしいであろうと考えます。これは別に人を驚かさそうと思っただけで言っているのではなく、本当にそう考えて言っているのであり、これについては又見た時に改めてご報告いたします。人々は皆、ローマ人の建築と比べて美しいと言います。これは少しばかり私が見たことから言っても、本当に素晴らしいものです。街の道は真つすぐに引かれ、敷きレングで舗装されているし、「牌坊」が至る所に立ち、それはローマより多い位です。この「牌坊」というのは、都市を更に荘厳に見せ、国家の政治が上手くいっていることを示している偉大な建築であり、その上、大理石の碑文がはめ込まれて、美しい文字が刻まれています。私達がローマで見るものよりも素晴らしいものです。皇族の邸宅も大変多く、私達ヨーロッパの物よりも比べ物にならない程しっかりとあります。しかし立派なのは外見だけです。巡撫や高級官吏の邸宅はきらびやかに輝き、高大華麗で贅沢な造りです。その外、彼らの

神廟は、全て格式と規律を備えており、神廟の壁は灰色になっていきますが、上の方の鮮やかな色彩は目を奪うほど見事です。注意が必要なのは、家屋の区別は官職の高低によりますが、神廟の区別は祀られている対象への威儀によって区別されていることです。他にも彼らの建築は大変素晴らしいで、私的や公的な塔を建てて、それらは皆高く、雄大です。

中国には高い山や大きな川が分布しており、それらの名前を詳しく述べることは大変面倒なので、主な五つの聖山についてだけ述べておきます。北方には北岳があり、北京からそう遠くない位置にあります。南方のすぐ近くに南岳、西には西岳、東には東岳があり、中央地方に中岳が位置します。これらに関しては、たくさんの興味ある本が書かれていて、人工的なもの、自然なもの全てありますが、記述は多くありません。最後にどうしても申し上げておきたいことは、この地の物産は豊かにあり、金銀などの色々な宝石を盛んに産出し、川はたくさん流れ、湖沼も広く分布し、果樹や花は至る所全てにある、最も幸せな土地であるということです。ですから、この地の人々はエデンの園のことなど信じないし、また望みもしないのです。彼らは自分たちが存在するこの現世の地こそ人間にとっての天国だと考えているのです。

この人々は皆同じ服装をしています。官吏にはいくつかの区別がありますが、その外の人々は素材と色で区別します。それらの服は皆大きくてかさばり、袖口も広く、まるでベニスの商人と同じようです。しかし、家の中では身軽な服装になります。農民もそれぞれ一着か二着の晴れ用の服を持っていて、官吏や友達を迎えられるよう、或いは接待用に普段はしまっています。もし、晴れ用の服が無かったら、お客を接待したり、官吏に接見するのに不都合からです。又、帽子からもその人の身分を判断できます。それは、官吏の位によってそれぞれの帽子が決められているからで、普通の人民と貴族の服飾品も又違います。只だ、外見は非常に美しく、頭髮の上にたくさん飾りを付けていて、まるでスペインの婦人達のように、僧侶を除いては皆、髪を長く伸ばしています。

貴族の夫人達は、めつたに家を出ることはなく、もし出掛けなければならぬときは、皆、覆いの付いた四人の担ぎ手が担ぐ籠ののつて出掛けますが、外の人は彼女等を見ることは出来ません。しかし、彼女らは皆教養のある人ばかりです。

中国の土地は大変清浄で健康的です。今迄疫病や伝染病が発生したなどという事を聞いた覚えは有りませんし、それ故、至る所に白髪の老人があふれ、これは政府の管理が行き届いているからだと思えます。又、一日中お金を浪費しようとしてあちこち出掛けてお互いに宴会を設けたり、酒を酌み交わしたりできる人も居て、これらのことは貴族達にとっては当たり前のことで、人は皆、飲んだり食べたりすることや歌を歌ったり色事に耽つたりするのをもとても好みます。そのために、それら専用の書物があつて、琴の引き方や季節に合わせて弾く曲のことが書かれていて、一年中踊りや音楽をし、その上愉しみのため場所、魚釣り用の池やその他暇をつぶすための場所や物を作っていて、それら全てをいちいち述べ尽くすことは到底出来ません。

中国の富や財産については、言うべきことが多すぎるのですが、前に申し上げ

げたことの不足を補うため、もう一度述べさせて頂きます。今閣下に申し上げるべきことは、中国の税収は世界最大であり、他の全ての国家がどんなに大きなくても、一人の官吏や又一つの都市ではなく、回収できる全ての税収で及ばないのです。人民は九分の一の税を納めますが、それについてははつきり覚えていません。北京の政府中枢に参加できるのは「閣老」と呼ばれる高級官吏で、その権力の大きさはまるで皇帝に並ぶかのように、その権威は或いは皇帝を凌ぐ程です。以前、報告したことがありますが、皇帝は溶かした銀などの財宝を持っていて、各省にそれを貯蔵しておき、国家の緊急の要に備えています。(ある人は皇帝は毎年、一億五千万の税収があると云っています。)但し、私は広東についてのみ申し上げているので、中国のその他の地方については分かりません。十冊分の記録を手がかりとしてもまだ資料としては足りません。そこには鉱物についても書かれていて銀やその他の金属、鉄や銅や錫、水銀など、その産出地も記録されています。その他、何処か分かりますが、貴重な玉や宝石が取れるところもあり、中国のその他の特産品についてその豊富で量の多いことは私が申し上げること全てに閣下は驚かれるでしょうか。マカオでは金の見本を見ましたが、なんと光り輝き、又なんと安かったことか。しかしそれらは貨幣としては用いられず、只だ商品としてのみ売買されるのです。貨幣としては銀だけが用いられ、鑄造した銀貨ではなくて、銀の重さによって売買されるので、中国の商人は皆片手に秤、片手に銀を持って商売を行なうのです。貨幣としては只だ一種類、制錢(經制錢、銅錢)と呼ばれる銅製の穴空き銭がありますが、その他は全て、国中にある銀で行なわれます。銀はどんなに貧しい人の家にも少しはあります。彼らは他には何も欲しがりませんし、贅沢な夢見るような事もなく、只だ銀のみを求めています。そして金や銀を善行に役立てることなども考えません。つまり、人生の最高の目的である主を敬い、自分の魂の救いを求めるなどという事は多くの人が望まないのです。

かつて、ある人が金や銀の産出地を教えてくれて言いました、「あそここの銀山をなんとかして奪えば、物凄い利益を得られるから、一緒に組んで会社を作らないか、そうすれば大金持ちになれる。」と。このように銀を貪り求める欲が、彼らに手を尽くして商売をさせ、金儲けに駆り立てるのです。このように、人工的なものも、天然の恵みも増えれば、自然と豊かになっていきます。閣下にははつきりと知っておいて頂きたいのは、毎年インドやポルトガル、日本から、銀を積み込んで輸入するための船が来ており、マカオに来る船、また中国に行きたい船もスマトラやジャワを経由して全て中国の省である広東に集められます。ここでは一円も儲けることは出来ず、全て物々交換です。しかし、外国人は保護を受けていて、全て国内から輸出するのであれば、密かに輸出することさえ出来ます。その他、中国の国土は広大ですから、内陸では更に大きな商売が出来、それによって富を得る事も出来ます。この結果現われる現象は運河や川は常に船の往来で一杯になり、まるで林のようになるという状態なのです。私が閣下に認めて頂きたく、申し上げたい事は、これらのことが私が自分の目で見たことでないならば、どうやって信用してもらえることが出来ましょうか、という事なのです。港が連続していて、もし広東を去っても又別の市場に

行く事も出来ます。リスボンやベニスの二大港さえこれほど船の出入りする量は大きくなく、一言で言えば、ここではどんな欲しい物でも手に入れられるということなのです。日本やシヤム、マラッカ、ジャワ、モルッカなど近隣諸国で中国と貿易をしていない国はありません。

中国人の知恵については彼らの聡明さから発明されたものを見れば分かります。文字は一つの物に一つの字を当てはめており、その構造も大変上手くできています。ですから、この世界に多くの言葉が有ればそれだけ多くの文字を当て嵌めて表せるので、中国人はその文字(漢字)ではつきりと認識することが出来るのです。彼らは漢字によって多くの学問を作り上げ、例えば漢方医学、一般物理学、数学、天文学などです。これらは真によく出来ていますし、その対象も広範囲にわたっています。天文学については、彼らは日食や月食の日付を正確に割り出します。用いる方法は私達とは違うのですが、計算上も技術や機械的な面においても真に驚くべき物です。これら天文学を司る人々はヨーロッパに行ったこともなく、全て自分たちの経験により得たものだけでこれだけの完成を収めていて、世界中を行き来している私達と比べてもまるで遜色が無いかのようです。中国政府の政治的管理能力はその他の全ての国家より抜けています。もし、主が与え給われた天性の知恵に、更に私達(カトリック)キリスト教の信仰と主による知恵が加われば、あのギリシャの哲學家、プラトンでさえも政治理論に関しては中国人には及ばないようです。閣下が知りたいと思われていること全てを私の能力では書き出すことは出来ませんし、その上時間もございませんので不可能と思われれます。ですから、今のところは私が見た事だけを閣下にご報告するに止めておきます。

中国全体は皇帝わずかお一人によって統治されていて、それは嫡子継承制です。現在は万曆帝で年令は二十四歳、執政を始めて十二年です。皇帝統治の年代は一つの年号によって始まります。彼は既に太子を立てていつも宮殿の中に居ます。この宮殿は一つの都市よりも大きいと言えます。彼はこの宮殿から原則的に出ることは出来ませんが、年に二度だけ、夏には天を祭り、冬には地を祭るために出掛けます。彼が出掛けるときは十台の同じ形の護衛の車も供として随行するので、だれも彼を暗殺するようなことは出来ません。又同時に十台の車には彼の三十六人の妃も乗ります。彼女たちは皆王侯貴族の娘達です。それから、生まれた皇帝の次男やその他の娘は皇帝が成人するにあたって宮殿から出され、他の省へ移されます。そこでは彼らは皇族であるが故にかなり高い地位を得ますが、政治に干渉することも出来ず、権力もありません。ですのでも、もし彼らが何か罪を犯したら彼らも死刑になります。しかし、彼らを武器で処刑することは出来ませんので、普通は彼らを塔に閉じ込め、餓死させます。この為、彼らは非常に注意深く、慎んでいます。宮殿の中には花園があつて色々な動物が居ます。そして二つの頭を持った銅製の大きな象が門番をしています。皇帝は様々な役人に国を治めさせ、彼らを均しく官吏と呼びますが、その官吏には二種類あります。一つは自己の才能により官吏になった人(文官)、もう一つは建国の功臣の功績を継承し、官吏になった人です。後者は皆辺境を開

拓した武官で、彼らは罪人を管理しています。中国では多くの人が自分が法を犯すか、またはその親や親戚が法を犯したことにより連帯責任を取らされて永久的に奴隷の身分に落とされ、同時に彼らの子孫も奴隷とされます。ただこの種の奴隷の刑は比較的軽いものですし、兵士にも充当されます。もう一種の官吏は文官で、彼らは大部分を占め、戦争によって誕生する前述のような官吏よりも位は高いようです。文官は九種類(段階)の官位に分けられ、その一つ一つに多くの職務があり、もしこれらを明確に区別して理解しようとするれば、膨大な時間が掛かるでしょう。しかし、少し簡単にならば分かります。この九種類の官位は三年に一度升官の機会があります。それはその人の行政区での功績によって左遷か昇進かが決まります。第一位の官位は皇帝の諮問機関で私達の言い方で言うならば、「国家の元老」ということとなります。この官位の間には厳格な主従関係があり、下位の者が上位の者と話すときは跪かなければならず、それぞれが自分の仕事を行なう時、他人の仕事に口出ししてはならないのです。又、それぞれの官位による服装と儀礼があり、道を進む時に馬に乗るか、轎に乗るか、等全て身分に応じて決められています。奴隷や従者の数も各々の身分によって区別されています。以上に述べてきた官吏たちは、人々に大変尊敬されます。彼らと話す時に跪くこと以外にも、官吏が外出する時は必ず黒い服を着たものが供として一緒に出向いて前方を歩きます。彼らは自由に笑うことも出来ず、態度も厳粛です。特に高級官吏が街に出る時の威容は私達の教皇や国王さえも目を見張る程のものです。官吏は六人または八人が担ぐ轎に乗り、前には札を担いだ従者が道を開きます。又、鎖も持っています。司法官吏は各種の刑罰用の器具を持って罪人を棍棒で殴ったり、縄で縛ったりして苛み、犯罪人を街中に引回すなど、恐ろしく酷い事をして、惨く見るに忍びません。広場の人たちはこれらの声や音を聞くことと見つかるとを恐れてすぐ屋内に身を隠し、門や戸、窓など皆閉めてしまふのです。この結果、通りでは雀や鳥も鳴くのを止め、もし官吏のこれらの様子を少しでも盗み見ようとしたら、直ちに処罰されるのです。以上の点から考えると、朝廷での謁見の厳しさは想像に難く有りません。このような戸や窓の開け閉め、銅鑼をならして道を行く、大声で喚びたりするのはまるで地獄に居るかのようです。このような普通の官吏以外にも毎年皇帝の命を受け北京から各省に監視のため派遣される監察使という者がいて、彼らは北京に戻ってからその監察してきた事を報告します。彼らは人の官位を取り上げたり政治を執り行ったりするので、彼ら監察使のことを閻魔大王と呼ぶ人も居ます。但し、彼らも「都堂」クラスの官吏には手が出ません。彼らの肩には手形を刺繍した飾りがあり、これは事務を行なう場所まで彼らが派遣されると時に皇帝から賜うものです。監察使の多くは隠密の捜査で、公表できるのは彼らが違法行為を発見し、犯人を処罰する時などで、全省を見回った後、年末に北京に帰り再び皇帝に報告し、彼らの国家に対する意見を表明するのです。

中国の強大な国力は人口や都市の多さと政治的の良好さにあります。その上、城壁や砦を頼れば、元々持っている実力で戦争さえできます。行政区に関して前述したように十五個あります。北京は首都であり、南京も大変大きな副首

都です。全てで百六十府、二百三十四州に分けられ、その他多くの町や村から為つていて、それらの細かな数までを調べるのは大変難しく、人口について詳しく知るのには更に難しいことです。皇帝の集計書には全体で六千万人の納税者がおり、官吏には司法官、財政官、及び武官が居るとあります。属国は日本も含めて全て中国に対して貢ぎ物をしていますが、今現在は日本だけがしていません。皇帝は中国の人口の多さや物の豊かさを一目見て、真に偉大であると感じ、中国が世界の全てであり、少なくとも世界の大部分を占めている主要な地位にあると思つています。ですから彼らは中国は全世界の王であると言い、非常に傲つて、中国に比肩できるような国家は一つもなく、皆属国のように恐れ怯えるのであり、それは中国が一瞬にして多くの武装船団を形成し、他のどんな国をも無力にしてしまえるからだと言います。このため中国人は殆ど軍事教練をせず、武力による功績も少ないのは、一般的に余り武力を行使する機会が発生しないことに由来し、あつても四つの低級な地方の一つで一度有つたきりで、それはもう以前に申し上げた通りです。更に、軍人の大部分が元は皇帝により処罰され、永久に奴隷の身分にある人々で構成されているからでもあります。海賊はどこかに潜み、日本から船に乗って中国に襲撃し、中国内陸部には入らず、海岸沿いの荒らし、掠奪し、村々を焼き、街々を襲い、まるで抵抗できずから、中国軍が策略や伏兵を用いると多くの海賊がとらえられ、日本へ逃げ帰れたのは殆ど居ませんでした。その内の少数の盗賊が内陸部に侵入しどこかの山を占拠しましたが、それらを討伐することが暫らく出来ませんでした。同様に北方ではタタール人が国境を騒がせました。閣下にも以前報告いたしました。彼らは表面的には好戦的ですが内心では女性と同じで、齒軋りして憤慨する人が居てもしばらくすれば大人しくなります。閣下が彼らを征服したら、最初は閣下に頭を下げますが、その後立ち上がって閣下の頭を越えて行くでしょう。中国人は皆、毎朝早くから二時間ほどを費やして化粧をし身仕度を整えます。そして着物を入念に選び、又た長い時間を浪費します。「手抜き」というのは彼らにとつては不名誉なことなのです。軍人を除いては人は自分の家に武器を置くことは出来ませんから一般の人民に対しては恐れる必要はありません。但し、徒党を組む人については又別の話です。中国人の官吏達は数多くの城や砦を築き、都市毎に城壁を盗賊や野党の攻撃を防ぐために築きました。城壁の建て方も幾何学的に建てられています。

又ここで中国人の宗教について少し述べておこうと思います。中国の宗教には三つあり、一つは「仏教」、一つは「道教」、そして「儒教」です。その中でも儒教が最も大勢を占めています。彼らは靈魂の不滅は信じず、且つその他の両派の教義や崇拜する鬼神を誇り、只だ「天」と「地」にのみ感謝しそれは彼らが天と地から大きな恩恵を受けているからですが、しかし天や地に「天国」へ昇る要求はしません。

私達布教神父はこの帝国に入り、彼らが主に気付くのを助けたいと願つているのですが、この国は外の世界との往来を絶つ政策を取つているので、全ての努力は未だ結実していません。最後に、五、六年前巡察師であるヴァリニャー

ノ神父はインドから派遣されたルツジェーリ神父に、先にマカオで中国語を勉強し、中国に入る準備をしながら主の慈悲によりこの国の門が開かれるのを待つように仰いました。そして神父は英知とこれ以上ない忍耐を抱いて中国内地に上陸し、のみならず中国官吏と好みを結んで信用を得ました。それでヴァリニャーノ神父はルツジェーリ神父のために助手として私を派遣されたのです。ここでは私達は一つの部屋を設けましたし、小さな聖堂も建てました。中国語などの学習と雑務が忙しいのに追われ、布教活動は初めはうまく行きませんでした。主の恵みにより中国語も少なからず進歩し、今はもう中国語で教理を説いたり、告解を聴いたりすることも出来ます。このように、布教活動に関しては私達は一日一日と進歩し、それは物質的にだけでなく、精神的にもであり、都堂も私達に興味を持たれています。私達は既に「天主経」や「聖母経」、「天主十誡」を印刷済みです。これらは中国人に大変受け入れられたようです。私達は今、主が何を私達にさせようとしているのか、何をさせたいのか分かりませんし、このような小さな活動に専念しているのか、何を成し遂げられたいのかも分かりません。只だ望むことは、私達が行なうこと全てが「主の御旨に叶いますように」ということだけ、これこそが切実な願いなのです。

ここでいまま少し申し上げておきます。これは他の人間に言われたことですが、私もルツジェーリ神父に返事を書かなければなりません、これは彼も知っていることですが、ここでは手紙を描くのは不便なのです。ですから閣下のご慈悲を請いたいのです。私は本当に閣下のご希望を完全に満たしたいと思っておりますので、私の祈りをお受け取りください。もし、私がフリーピンに達することが出来たならば、必ずや到達した時期と生活の様子をご報告いたします。願わくば主が閣下のお体を健康に保たれんことを。

あなたの下僕であるマテオ・リッチより
一五八四年九月十三日 肇慶にて

(訳文注)

(1)この書簡については前掲平川氏『マッテオ・リッチ伝』の三三三頁から七八頁に、また八四頁以降にも、他の書簡と対照しながら、断片的且つ詳細に分析と紹介を行っており、大変参考になる。本訳稿が用いた「中国語訳本」が省略しているような部分なども見受けられるが、平川氏訳文と相互補完する参考となれば幸いである。この他、前掲の『中国キリスト教布教史』にある「第二」の書 第四章、五章、六章には、この書簡を踏まえた記述がまとめられている(大航海時代叢書 岩波書店 一七六頁〜一九九頁)。

【中国語・原文】

四、利氏致西班牙稅務司司長羅曼先生書 一五八四年九月十三日 撰於肇慶(承前稿)

对城市，我将说些什么呢？在富麗廣大、人口衆多方面，我們歐洲的要優於他們，所以在華麗上，他們比較差一等，雖然，這裡我們只是看到中國較差的一省，就是廣東省，原來這裡是放逐犯人的地方。我所看到的称「府」的城市，它們之

間分配得距離均等，還有称「州」的，以及各區鄉村之間分配情形，整個中國就像是由一位數學家所策劃，是用圓規所測定。各村各鎮有其位，這就可以小推大，因為小農莊與小城市，既是如此衆多，我可以說全中國就像似一個無比大的城市了。人家說城市的華麗如何如何，我也這樣相信，特別是在其他省份中，尤其北京，那是皇帝所在地，還有南京，古時也是京都之地，還有就是皇帝居住過一段時期的地方。關於它們，我不想說一些驚人的事，我想有些是真的，別的待我再說。人們都說，他們可與羅馬人的工程相比美。這些少許我所見到的真是太美了，街道修得筆直，鋪地磚，牌坊處處有，比羅馬城還多。由於這些牌坊，使城市變得莊嚴，顯出國家治理得好，工程偉大，其上鑲有大理石的碑文，刻上精美文字，似乎比我們的要好得多。王府很多，但建築比不上我們歐洲的結實，他們僅外表好看。巡撫與大官的宅第則金壁輝煌，高大、華麗、奢侈。此外，是他們的神廟，一切都具有格式與規律，所有的神廟牆壁多呈灰色，但上部各種顏色鮮艷奪目。常要注意的是，房舍的區別是按官職的高低而分類的，而廟宇方面，則是按神的敬礼、而分的。此外，他們有建築得很好而又富麗的私人塔及公眾塔，也全是高大雄大的。

中國有高山大川分佈其間，要敘述它們的名字，真太繁雜了，主要的聖山共五個。北嶽位在北方，距北京不遠，南嶽則靠近南方，西嶽在西方，東嶽在東方，中嶽位於中原。有關於這些，有人寫了許多有趣的書，天然的與人工方面的都有，不多敘述。最後，這不能算是一個最幸福的土地，物產豐富，盛產金銀與各種寶石，河流縱橫，湖泊密佈，果樹百花到處都有，所以這土地上的人既不相信，也不希望伊甸園，他們視自己現世所有的土地就是人間天堂了。

所有的人都穿著同一的服裝。官員則有些區別，其餘的人則在材料與顏色上來作區別。所有的服裝都是很笨重、寬大、寬袖，一如威尼人一般，雖然，在自己家中可以穿短裝。農夫皆備有一、兩件好看的衣服，以便見官員或朋友，或接客時用，平常都收藏起來。若沒有好看的衣服，就不便接客或晉見官員。由帽子也可區分出人的身份，因為各官有各種等級的帽子，一般老百姓與貴族的服飾又不一樣，但外觀都很好看，頭髮上也許多飾物，正像西班牙的婦女一樣，人人都留長髮，只有和尚除外。

貴族婦女們很少離家出門，如須外出，都坐在覆蓋著的轎裡，由四個腳夫抬着走，但外人看不到她們，她們都是很有修養的婦女。

中國土地是很清潔健康的，記得在那裡沒有發生過瘟疫和傳染病，所以充滿各處的是白髮老人，雖然，這事我們可以歸功給良好的政府，也有些人可能整天企圖在浪費金錢，彼此拜訪，相互宴請，飲酒作樂，這為士子都是平常的事，人們都很愛好吃喝喝聲色之樂，且有專門書籍，記載彈琴的姿勢與季節的舉行，整年有舞蹈和音樂，還有作樂的處所，釣魚的池塘，和其它消遣的處所等等，無法一一敘說。

關於中國的財富，雖然，該說的太多了，我看為補充以前的不足，再說一點。現在我告訴閣下，中國是世界上稅收最高的，因為在所有的國家，無論他們是多麼大，沒有一位官吏，也沒有一座城市可以全部收稅糧的。百姓應付九分之一或十分之一，我已記不清楚了。可以參與北京內閣的大官称「閣老」，其權之大如皇帝一樣，他們的權威似乎皇帝的還大。我們也說過，皇帝有熔化的銀子等財寶、

在各省貯藏起來，以備國家急需之用（有人說皇帝每年有一億五千萬稅金的收入），我說的只是廣東，而對中國其它地方的稅金，我就不得而知，用十本帳冊來記載也是不夠的。那裏載有金礦、銀子以及其他金屬，如鐵、銅、錫、水銀等，以及他們的出產地，何處可採珍珠、寶石，以及中國的其他特產品，對其豐富與龐大，說起來都會令閣下驚奇的。在澳門就可看到很多金子的樣品，是多麼光亮，又是多麼便宜，但它們不是錢幣，只是商品而已，只有銀子才是貨幣，但沒有鑄造銀幣，而以重量買，所以，在全中國，凡作買賣的商人，都一手拿秤，一手拿著銀子，只有一種金屬銅幣——制錢，其餘全是光亮的銀子。全中國都有，無論再窮的人家都有一些，他們不作別的美夢，也不希望別的東西，只希望有銀子。他們不知道利用金和銀去做善事。有多少人不知道我們人生高尚的目的——那就是要愛天主及救自己靈魂。

有人曾來告訴我們金銀的產地，並給我說，要設法爭取那裏的銀礦，可以獲利很多，並想與我們組成公司，這樣我們就會致富了。這種銀子貪求欲，迫使他們用盡方法去經商，設法去賺錢，因此，由於人工及天然財富的增多，就變成很有錢了。閣下瞭解得很清楚，每年自印度、葡萄牙以及日本，進口多少銀子，常是一船一船的裝運回去，來澳門的船，也是要去中國的，還有經過蘇門答臘和爪哇，全都匯集到廣東，那是中國的一省。這裡無法賺到一分錢，全部以貨抵貨。雖然，外國人經商是獲得保護的，但一切自國內出口，都是私下運出，另外，中國幅員廣大，在它的內部就有很大的生意，即足以致富了。因此，出現的是，這些河流常是航運頻繁，船隻如林。我向閣下供認，我要敘述的事，若不是我親眼見過，無法使人置信。一路港口連綿，若是去廣東，再去別的市場，連里斯本及威尼斯二大港口都沒有如此大的裝運吞吐量，在這裡，一言以蔽之，可以買到任何人所想要的東西。一些鄰國如日本、交趾支那、暹羅、馬六甲、爪哇、摩鹿加及其他無不來中國貿易。

中國人的智慧，由他們聰明的發明可以得知。論他們的文字，每樣東西都有代表的字，而且結構深很巧妙，所以，只要世界上有多少語句，就有多少各個不相同的文字來代表，而他們都能將它們學會並認識得清清楚楚，他們也用它們作各種學問，例如醫藥、一般物理學、數學與天文學等，真是聰明博學。它們計算出的日、月食非常清楚而準確，所用的方法却與我們不同，還有在算學上，以及在一切藝術和機械學上，真令人驚奇。這些人從沒有和歐洲交往過，却全由自己的經驗而獲得如此的成就，一如我們與全世界交往所有的成績不相上下。中國政府治國能力超出其他所有的國家，他們竭盡所能，以極度的智慧治理百姓，若是天主教在這種本性的智慧上，再從我們天主教的信仰而加上神的智慧的話，我看希臘的哲學家柏拉圖，在政治理論方面也不如中國人。閣下想知道它所有的一切，但這不是我的能力可以寫出來的，況且，在這麼短暫的時間裏，也不可能做到。所以，目下，我只能將遇到的向閣下敘述一點罷了。

整個中國，僅由皇帝一人統治，他是由長子來繼承的，現在萬曆皇帝，年紀為二十四歲，執政了十二年，因為皇帝統治的年代，正是這一年號的開始，他已立了太子，常居留在宮中，這個宮可說比一座城市還大，他不能出此區域，要出外，每年僅有兩次，即夏季去祭天，而冬天去祭地，當他出行的時候，有十輛同一型式的御車同時陪同出發，而這樣，使人無法進行任何行刺之事，當他出行的時

候，有十輛車而行，他有三十六位妃子，都是各王侯和貴族家的女兒。日後，生了皇帝的次子及其他的子女，待成年後就將他們送出宮外，去外省地方定居，在那裏享有很高的地位，因為他們是皇族，但不得干涉政治，也無權力，若是他們犯了任何罪行，也會處死，但不得以鐵器殺戮，一般把他們囚在塔中，讓他們餓死。為此，他們必須小心而謹慎，在皇宮中有一花園，其中有各種動物，並有兩頭銅鑄大象守着大門。皇帝藉各級官員治理帝國，他們均稱為官吏，他們是兩種情形而產生的。其一，他們是由於個人的才能，或由於繼承建國功臣而成為官員的，這後者均屬開疆拓土的軍官，他們管理皇帝的受刑人。在中國有不少人由於犯法，或由於其父母或其親戚犯法，因此而被連累，永久地受罰終身身為奴隸，同時也連帶他們的後代成為奴隸，但這種奴隸之刑責較輕，也有充當兵士的。另一種情形的官員是文官，他們佔了大部分，且較那些由戰爭而產生的武官較為高級。凡官共分九品，每品有很多職類，若我們想瞭解得清楚一些，就必須費以時日了。但是我們略知一些就可以了。在這九級之間，三年可以一升，按每人行政以及每人治國之才德表現而定升遷，如此而升第一品級，那是皇帝的諮議團，要以我們的說法，就是稱為國家的元老。在這些官員間，有很大的隸屬關係，作屬下的若向上級者說話時，甚要下跪，而各人有各人的職務，不得過問別人的事，各有的服飾和儀仗，以及行路的方式，或是騎馬，或是坐轎，都得合乎職位的身份，還有家中的傭人，待者的數量各有區別。以上所說的官員並受人尊敬，除了和他們說話時要下跪外，出外行動時則必有穿黑服者相陪而外出巡，並在他們之前，不得任意嘻笑、態度嚴肅，特別是那些大官上街時，其耀武揚威之勢連我們的教宗和帝王皆瞠乎其後。官員坐轎就由六個或八個傭人担在肩上去，前面有侍從舉着牌子開道，有的還帶鎖鍊，而司法官員則用各種刑具來折磨定罪之人，如用棍子打，用鍊子網等，牽引犯人在官員前遊街，恐怖殘酷，慘不忍睹。廣場上的人群，一聽到這些聲音便見屋就躲藏起來，深怕被發現，全部門戶、店舖、窗戶全為之關閉。而使街上鴉雀無聲，即使想偷看官員一下，也會遭來處罰。由此看來，朝覲的嚴厲更可想像了，這樣門窗的一開一闔，加上打鑼開道，嗚聲喧叫，真像在地獄裡一樣。在這些普通官員之外，每年，皇帝從北京派出一些監察使，去各省視察，以後再回來報告其所見到的情形，他們有權撤去他人之職務並主持公道，人稱監察使為閻羅王，但他們對都堂級的人則無權可施。他們在肩上佩帶繡花手形肩章一枚，是由皇帝所賜，在其辦公室舉行派遣禮時佩帶，多半是要他們深隱密查，而後再公佈出來，展示出他們所發現的違法之事，處罰違法惡人，而在巡察全省之後，在年尾時，回返北京，再稟皇上，提出他對國家的建議等。

中國之鞏固威力是建立在人口與城市的眾多和政治的良好。還有那就是靠城牆和堡壘了，這都是作戰可憑藉的天然實力。省份方面，如我以前所說的，共十五個。北京是主要的首都，而南京很龐大，為陪都。共有一百六十府，二三四州，許多城鎮和小村莊，很難知道他們的詳細數目，更難知道究竟有多少人口。在皇帝的魚鱗冊上，共有六千萬納稅人，官吏有司法、財政官員及作戰武官。所有的附庸國，連日本在內，全得對中國朝廷進貢，但現在日本已不進貢了，皇帝一看到中國的人民眾多，物產豐富，覺得真是偉大，他們以為中國就是整個世界了，或至少中國佔有世界之大部分，並為首要之地了，因此，他們自稱為全世界的君王，他們因此也非常自傲，以為沒有一個國家可以與中國相比擬的，而這些附庸

国也畏懼他的威力、因為在一剎那間、即可武裝很多的船隻、這足以威脅任何国家也無能為力。為此、中国人很少練兵打仗、在他們中、武功也是很少提到的事、在公衆方面是很少發生的、在四個低級的地区中之一、有過一次、一如上面我所說的。因為軍人中大部分是由犯人以及被皇帝處罰黜為永久奴隸的下流人所組成。海盜只從事某種事情、因為他們是來自日本乘船而來中国海岸的、他們不進入中国内地、只在沿海一帶搶劫和燒燬村莊、襲擊城鎮、似乎無人能抵抗他們、不過他們多半是烏合之衆、被中国軍隊利用詐術和埋伏而捕殺了很多、因此很少能返日的。少數盜匪則進入內陸、他們佔據某個山頭、中国方面一時也無能為力去除掉他們。同樣、北方則有韃靼人在辺疆地区擾亂。我向閣下寫過的、他們在表面上都是一些好戰鬪的、但他們內心的深处却像婦女一般、有人顯出咬牙切齒給你看看、一會兒就平靜下來、當你征服他們時、他們會向你低頭、然後他又站起来爬到你的頭上。每天早晨、他們都費上兩小時在化粧梳洗上、而且講究穿戴、浪費很多時間。「逃跑」為他們是件不榮譽的事。除軍人外、其他人不能在家藏有武器、所以對一般百姓是不該懼怕、但是如一大群的人、那又另當別論。他們築有很多城堡、每座城市都有城牆作為防御盜賊土匪攻擊之用、城牆建築都合乎幾何式的比例。

如今再談一些中国人的宗教與教派。中国共有三個教派、一為「宗教」、一為「道」教和「儒」教、而以後者最出名、他們不信靈魂不死、而且譏笑其他兩派的教義以及鬼神、他們只感謝「天」與「地」、因為他們由此而獲得了不少恩惠、但並不向「天」「地」要求天堂的福樂。

我們傳教神父們確願進入這個国家、以協助他們認識天主、但是、這個大国推行「閉關自守」政策、一切努力都未成功。直到最後、在五、六年前、視察員(范礼安)神父方從印度派遣了羅明堅神父、叫他先留居澳門學習中文、準備進入中国、也期待天主的仁慈把這個大門打開、後來神父、抱着明智與無比的忍耐進入内地、不僅獲得了中国官員的友誼、而也得到了信任、所以視察員神父就派給他一位同伴神父、都堂在城中給他們一處居留之所、要他們不要離開。在那裏、一年前我們曾蓋了一座房子、其中還有一座小聖堂。由於忙着工作和學中文的關係、傳教工作起初並不成功、感謝天主、到後來有了不少進步、目前我們已經可以講道和聽告解了。這樣對我們的工作一天比一天好、無論是物質方面、或是精神方面、都覺得更有興趣。我們已印刷了中文的「天主經」、「聖母經」和「天主十誡」、中国人看後都覺得很好、也很高興地接受了。我們還不知道天主主要我們做什麼?且從小小的工作中、能成全些什麼?我只懇求祂、在一切事上能「奉行祂的旨意」、這就是我們所切望的事。

就這一点東西呈報給閣下、是由別人提供我的、我也要回信給羅明堅神父、他也知道、有些是在這裡不便寫的。為此、請閣下原諒、我真希望使閣下能完全滿意、請您接受我的祝禱、假使我能到菲律賓、定会告知您到達的日期與生活情形。願上主賜閣下貴体康泰!

在主內的僕人 利瑪竇敬上

一五八四年九月十三日 撰自肇慶

【和訳】
5、ローマ総会長アクウアヴィヴァ神父へ
一五八四年十一月三〇日 広州にて

イエス マリア キリストの内にある極めて尊敬する神父へ
願わくば主の恵みが私達の上に満たされん事を。

私は元々今年にはあなたに手紙を書かないと決めていました。それはあなたの貴重な時間を、私のそれほど重要でない手紙を見ることで、浪費するのを避けるためです。私は我々の肇慶にある布教基地のためにこまごましましたことが広州に来てからありました。私の同伴者である羅明堅(ルツジェーリ)神父は、私たちが中国語で著作した『天主実録』をあなたに差し上げるよう依頼されました。主の聖なる恩寵の助けによって、既に印刷に付しましたが、中国でもとても歓迎されています。内容は一人の信者でない中国人が様々な問題について質問し、ヨーロッパ人の神父が一つ一つ答えていく、というものです。論理は明晰で、表現も相当優美な仕上がりで、信者になるために備えるべき必要な知識が網羅的に含まれています。我々の親しい友人一案ずるに肇慶知府である王泮一が潤色と修正を加えて、中国の主要な宗派の思想にもどうにか適応して編集されています。最初の地図は既に出版されました。元々の計画では、要理問答の後ろに付ける予定でしたが、我々の友人である知識人達が賛成しなかったため、やめました。同時に、マカオ学院の院長であるカブラル (G. Francesco Cabral) 神父が状況視察にやって来られました。この一、二日のうちにすぐマカオに戻らなければなりません。この神父については、一五八四年十二月五日の書簡から、彼が十一月三十日に肇慶を離れ、マカオに戻る直前である事が分かる。我々は以前、『新編天主実録』をラテン語かイタリア語に再訳出しようと考えていましたが、同じ理由で訳出できませんでした。

神父様!あなたがこのわかりにくい手紙を読んだ時に、慰めを感じることになるのは、主の恵みである助けによって、我々が大変短い時間で既に少なくない事柄を学び得たからで、更に神父様やイエズス会全体の祈りと苦勞の助けがあったからこそです。それによって始めて我々も現在のこの重責に堪えうる事が出来ています。我々は今回この手紙(や『天主実録』)と一緒に、十戒、天主經(『パテル・ノステル』)、聖母經(『アヴェ・マリア』)の中国語訳もあなたに送ります。これら以外に一枚の地図もありますが、これらは、我々の(普段使用する)様式で出版しました。ただし、地図上の文字や距離、所要時間や地名などは中国語で記入しています。これを肇慶知府である王泮に献上したところ、彼はすぐさま、部下に印刷するよう命じました。この地図の中には誤りもあるのですが、その理由の一つは、私がこれまであまり地図作成に意識を十分払ってこなかったことがまずあり、ついでこれほどまでに迅速に印刷に付されるような事態になるとは、思いも寄らなかったことが挙げられます。また同時に他のもう一つの理由としては、印刷に関わった作業者の未熟さ挙げられます。それでも、私は神父様が地図に記入されている中国語による注や解釈を目にして、喜びをお感じになられるだろうと考えています。知って頂きたいのは、この地図が上述のようにこれほどの大きな注目をされていること、そしてまた

知府自身が彼の官邸で自ら監督して印刷させていることなどです。ただ、彼はこの印刷した地図を何人にも売ることを欲しておらず、重要な礼儀を行う時に、中国で地位の高い人間に贈呈することにしていきます。我々の布教事業が進展し、イエズス会日本教区官長である范礼安（ヴァリニャーノ）神父の活動にも大きな敬意を払っていますので、（アクウアヴィヴァ総会長）神父様が、内容が同じ手紙を重視しなくても良いように、（最近の活動の）詳細についてはここでは省略します。あらましを申し上げれば以下のようになります。この地ですでに我々は活動拠点の建設に着手し、まもなく完成します。少し小さいようにも映るのですが、少なくとも（中国）人が興味をもって見学に来ますので、我々もまたまった休みがほとんど取れない状況です。

王洋知府は昨年同様、我々を非常に手厚く保護してくれています。正しく我々が思い描いていた、彼の善良な心としての我々に対する手厚い保護と温情に、主が報いたかのように、今年、彼は昇任し、「嶺西道尹」に転出しました。この役職は大変多くの地区を管轄し、彼が長い間願っていたものでもありません。彼には一人の娘さんがいるのですが、彼の奥さんは今また妊娠をしています。我々は、非信者が悪魔の煽動や誘惑を受けて、ついには重罪を犯しているというでつち上げの報告をされるなど、少なからず苦勞していますが、「主は一切の困難から我々を救い給い」ました。

今年、我々の教えに改宗したのは三名きりですが、その中の一人は「秀才」であり、カブラル神父により洗礼を施されて、洗礼名をパウロ（保禄）とされました。ここで言う「秀才」とは、儒学（文官登用試験である科擧）における階級（資格）の一つです。彼は既に故郷に戻り、家族全員に改宗入教を進めるという思いを持っていました。家族の多くも洗礼を受けることを願いましたが、カブラル神父とマカオのその他の神父の意見に基づいて、我々の中国国内における地位が不安定な現状では、信者の安全を図るためにも、このような事を急がない方が良くだろうということになりました。

我々は善良な「労働者」の協力を求めていましたが、以前（ヴァリニャーノ）管区長宛の手紙にも書いたように、彼は我々の求めを満足させるに十分であると信じていますし、主の聖なる恵みの力によって、この方面での更なる収穫があることを希望しています。その他の事で比較的重要なことは、正直に申し上げれば、現在の業務はやはり骨が折れると感じています。あなたが以前から思い遣りをもって私にご配慮頂いていたことから、この地には多くの危険がありますが、命令に従い成就するために、私は心からこの地にとどまることを願っています。どうやら紙幅が尽きてしまったようです。神父様、このような上手でない手紙しか書けないことをどうかお許し下さい。これは私がもう部分的にイタリア語をはっきりと覚えていないことが原因です。これ以外にも欠点はたくさんありますが、併せてひとえにご寛恕を賜りたいと思います。

主がいつも神父とともにあり、重ねて私とともにあらんことを願います。

あなたの忠実な下僕であるマテオ・リッチより。

一五八四年十一月三〇日 広州にて

（訳文注）

（一）この書簡については前掲平川氏『マテオ・リッチ伝1』の七九〜八〇頁に、抄訳があり参考になる。平川氏は本書簡の抄訳を掲載するとともに初刊執筆の背景に関する分析と紹介を行っているので、相互補充する参考となれば幸いである。

【中国語・原文】

五、利氏致羅馬總會長阿桂委瓦神父書 一五八四年十一月三十日 撰於廣州
耶蘇 瑪利亞
在基督內極可敬的神父：

願基督的平安常充滿我們心靈！

我原決定今年不再給您写信，以免就您寶貴的時間，看我這些不重要的信。我為我們肇慶傳教站一些瑣碎事來到廣州。我的同伴羅明堅神父囑咐我給您一本我們用中文編寫的「天主實錄」，托天主的聖寵的協助，今已印妥，且在中國很受歡迎。內容是一位中國教外學人詢問種種問題，一位歐籍神父一一回答。條理分明，文詞相當優美，對做教友心具有的知識無不網羅其中，当然是經我們的至友——按為肇慶知府王洋——潤色過，我們且設法適忘中國主要宗派的思想而編譯。第一幅地圖已出版，本來計畫在要理問答的後面，因為我們的學者朋友不贊成而作罷，同時澳門會院院長加布列列神父來觀察看望我們，這一兩天之內他就要返航回澳門了。我們曾有意把「新編天主實錄」再譯為拉丁文或義大利文，但因同一理由不曾譯出。

神父！當您讀這封難懂的信時，您應當感到安慰、托天主的聖寵的幫忙，我們在很短的時間，已學得不少，更由於您與全會的祈禱與刻苦之助，所以我們才能負起這一重任。

我們同時也把「十誡、天主經、聖母經」的中文譯文寄給您，除此外尚有一張地圖，是以我們的樣式出版的。但是上面的文字，公里與時間的計算以及地名等，則以中文寫出。我們把它送給肇慶知府王洋，他立刻要人印刷出來。雖然其中不無錯誤，部分原因在我，首先因我不曾精心繪製，同時我也沒想到這麼快便印妥了，部分是印刷上的手民之誤。但我仍認為您看到上面的中文注解而會看到高興。您心知道這張地圖在中國是多麼受到重視，還是知府本人在他官邸中親自督印的。但他不願寄給任何人，而只把它當作重禮，贈送給中國有地位的人。

由於我們傳教事業的進展，我對日本區省會長范禮安神父十分敬重。為使您不必重看內容相同的信，因此我就不細說了。該說的概要如下，我們已開始建的房舍快要落成了，雖然似乎小了一點，但吸引不少人前來參觀，使我們連休息的時間幾乎也沒有了。

知府（王洋）和去年一樣，對我們非常愛護，正如我們所想的，由於他的善心，天主為酬謝他對我們的温情厚意，今年使他升了官，出任嶺西道尹，治理很多城市，這是他希望很久的。他有一位女兒，他的妻子今又懷孕了。

我們吃了不少苦，外教人受魔鬼的煽惑，竟然誣告我們犯了重罪，但「天主從一切艱難中把我們救出」。

今年只歸化了三位教友，其中一位是秀才，他由加布列列神父施的洗，聖名保祿。所謂秀才，是儒家階級之一，他已返回故里，有志勸其全家信主。許多人也願受洗，但基於加布列列神父和澳門的其他神父的意見，認為當我們在華的地位

没有穩定前、為求教友的安全計、似乎不宜急於這樣做。我們需要良好的「工人」的協助、曾給省會長去信、相信他会滿足我們的需要、希望藉天主聖寵之助、在這方面我能有一些收穫。其余比較重要的、我坦白告訴您、我感覺在工作上有些吃力、須要您以往对我的關懷多關注我、這裏固有許多危險存在、但為服從計、我情願留在這裏、如今信紙快完了。神父！請您原諒我、写得這麼糟、因為我对部分義大利文已記不清楚了。此外尚有其它缺点、一併請您寬恕。

希望天主常與您同在、再一次把我托付給您。

在主內您的不肖神子 利瑪竇敬上

【付論】

「はじめに」の部分の、「注3」に挙げた「大きな動き」について、関連の文献には以下のように掲載されている。適宜紹介と分析を加えながら、私見を述べていくこととしたい。

まず、カトリック新聞(2018年9月30日・第4452号)には次のように掲載されている。【ビリニウス(リトアニア)9月22日 CNS】中国のカトリック司教は数十年ぶりに教皇との完全な交わりに復帰した、とバチカンが明らかにした。教皇フランシスコは、中国政府の承認で叙階された司教7人の破門状態と言えない不正規な地位を解消した、とバチカンは9月22日、発表した。発表の数時間前、バチカン代表を率いる教皇庁國務省外務局長アントワヌ・カツミレリ神父と中国外務省の王超外務次官が北京で、司教任命についての「暫定合意」に署名した。「教皇フランシスコは中国での福音宣教を維持していくため、教皇の任命なしに叙階されていた残りの“政府公認”司教たちを教会との完全な交わりに復帰させることを決断した」とバチカンは声明で述べ、該当の司教たちの氏名を挙げた。教皇は7人の司教の他、昨年死去したが、生前に「使徒座との和解を願っていた」司教の名前も加えていた。(中略)中国の信者の一定数(1)は、ローマに承認されていない司教の管轄下にある活動または小教区への参加を拒んできた。近年では、中国政府宗教事務局が管轄する「中国天主教愛国会」によって選任された司教たちのほとんどがバチカンの承認を求め、叙階前に承認を受けている。司教の選任と任命は数十年にわたって、バチカンと中国の関係改善を行き詰まらせる主な原因だった。カトリック教会は、教皇の司教任命権を強調し、中国政府はこれを内政干渉に当たるとする立場を貫いてきた。政府への登録申請と政府任命の司教に従うことを拒否してきたカトリック共同体は、一般に地下教会と呼ばれている。」

この報道の後、翌週の号(10月7日)では、「教皇フランシスコ 中国との「暫定合意」説明 国内の信者と全教会に」の見出しで、「：「中国のカトリック信者と普遍教会」に宛てた教皇のメッセージは9月26日、バチカンが公表した。中国のカトリック共同体の将来についての「情報錯綜する」中、更には「混乱」または疑念、希望的観測といった多様な反応が起こっている中で、教皇フランシスコは今回のメッセージを通して、中国の信者のために日々祈る

ことを約束し、「皆さんの忠実さと試練のただ中にも揺るがない誠実さのためにも、状況がとりわけ厳しく、困難な時にさえも堅固な神のみ摂理への信頼」を真摯に賞賛している。聖ヨハネ・パウロ2世教皇によって始められ、名譽教皇ベネディクト16世が引き継いでいた使徒座と中国当局の間の対話のプロセスは、「教会固有の霊的、司牧的な目標を達成する」というただ一つの願いによって突き動かされてきた。それは「つまり福音宣教を支えて前進させ、中国におけるカトリック共同体の完全で目に見える一致を回復し、維持するためです」。

中国のカトリック教会は、共産主義政権に協力する共同体と、それを拒む共同体の二つに分裂してきた。」と説明し、今後の成り行きを注視している。

この点については、周知の通り、中国共産党政府とバチカン教皇庁は「司教任命権」をめぐる争いをきっかけとして1951年に断交しているが、今回の動きは、その状況からの大きな方向転換と言えるため、各方面に賛否両論を巻き起こしている。なぜ、この方針転換が各方面で議論を引き起こしているのかについては、歴史的な「典札問題」と併せて見ていくと、以下のような言及が挙げられる。

典札問題の代表的な先行研究である矢沢利彦氏の『中国とキリスト教』(世界史研究双書⑩、近藤出版社、1972年、294頁)では、「一九五〇年七月プロテスタント指導者呉耀宗らは周恩来の示唆に基づいて、中国の教会から帝国主義、ことにアメリカ帝国主義が宗教を利用して反動しようとする陰謀を警戒し、中国の教会を真に自治・自養・自伝のものとする運動を開始した。この運動は三自運動と言われ、五年以内に完成するはずであった。プロテスタントには(中略…)運動は順調に進んだけれども、ローマと組織的につながっているカトリック教会はこの運動を推し進めることには多大の困難があったようである。(…中略)共産政権が樹立する前に中国で働いていたカトリック司教は6000人にも上っていたのに、一九五五年には僅か三三名しか残留しておらず、そのうち二〇名は獄中にあつたということである。中国のキリスト教会を西洋人支配の手から解放する運動は着々として進行したとみなければならぬが、ローマと絶縁したカトリック信者がどのような信仰形態を維持しているかは大いに興味がある。」と、既にこの時点で「典札問題の展開」を「流動的」な視点から指摘している。この指摘に最近のバチカン教皇庁の動きを重ねた時、今回の「司教任命権」の争点は、バチカン公会議の資料によってより明確になる。例えば、『第2バチカン公会議 公文書全集』(南山大学監修、サンパウロ出版、2001年 初版11刷、131頁以下)には、「2教皇及び司教の派遣」このキリスト教会において、ローマ教皇は、キリストが自分の羊と子羊を牧するようにゆだねた。ペトロの後継者として、神の制定により、司教上の最高、完全、直接、普遍の権能を持っている。したがって、ローマ教皇は全ての信者の牧者として、全教会の共通善と個々の教会の善について配慮するために派遣された者として、全ての教会の上に通常の権能の首位権を持っている。司教たちも、聖霊によって任命され、霊魂の牧者として使徒たちの跡を継ぎ、教皇とともに、また教皇の権威のもとに、永遠の牧者であるキリストのわざを永続させるために派遣されたものである。」とあり、また「19(司教の自由、公権と

の関係) 霊魂の救いをめざす自分の使徒的任務を行うにあたって、司教はいかなる国家権力に対しても本来完全無欠の自由と独立を持つている。したがって、司教の教会的任務の遂行を直接あるいは間接に妨げること、また司教が使徒座やその他の教会権限保持者、あるいは自分に属する者と自由に交流することを妨げることが許されない。」とし、更に「20(司教選任に関する自由) : 聖なる公会議は、今後、司教職への選挙、任命、推薦あるいは指名のどのような権利も特権も、国家権力に与えられることがないよう要望する」(以上同書139頁)としているからである。

つまりこれらは裏を返せば、「ローマ教皇以外には司教任命権はなく、公権力の介入を認めていない」ことを確認・要請していると言えるのである。これは「司教任命」叙階が、カトリックにおける「秘跡」の一つであるため、日本のカトリック信者に向けた手引き書である『カトリック教会のカテキズム要約(コンベンティウム)』(カトリック中央協議会、2011年、173頁以下)にも、以下のように「第二部 教会の七つの秘跡 第三章 交わりと使命を育てる秘跡」に「322 叙階の秘跡とは何ですか。叙階は、キリストから使徒たちにゆだねられた使命を世の終わりまで教会において果たさせ続ける秘跡です。323 なぜ叙階(Otto)の秘跡といわれますか。Otto(位階・団体)という語は特別の聖別(叙階)によって加入が出来る、教会の一つの団体を意味します。聖霊の特別のたまものによって、この聖別も、神の民への奉仕のため、キリストの名において、またキリストの権威をもって、聖なる権能を行使することが出来るようになります。326 司教叙階の効果は何ですか。司教叙階は、叙階の秘跡の充滿を受け、司教を使徒の正当な後継者にし、司教団に加え、教皇と他の司教たちとともに全教会への配慮を分かち合います。また、教え、聖化し、統治する務めを与えます。」と明記されていることからも分かる。今回問題となっている「司教任命権問題」の持つ歴史的背景を、「中国共産党政府」と「ローマ教皇庁」、そして「台湾」の関係から分析した杜筑生は、『教廷の国際地位兼論教廷與中国の関係』(輔仁大学天主教術研究中心出版、2012年)の中で、「第三章 教廷與中華民國の関係 第一節 教廷的一个中国政策 一、教廷堅守一個中国政策 : 事实上、教廷在其所有官方正式文書上、均称在台湾的中華民國為「中国」とし、バチカンの認識上は「中国」台湾であることを「台北にある中華民國駐教廷大使館」という呼称から検討している(181頁)。更に「第四章 教廷與中国大陆的關係 第一節 中国大陆对宗教政策的立場」の中では「二、中共对天主教的敵視政策」の項と「第四節 教廷與中国大陆改善關係的困境 二、中共挑戰教宗任命天主教的權威」の項(195~202頁)で「中国共産党政府」の「司教任命権」が、ローマ教皇の持つ司教任命権と相容れないことを明確に指摘している。これは「權威性」の問題として、明朝から清朝、そして現代に至るまで厳然として存在していることを示す好例であると言える。

以上、雑ばく私見を述べてきたが、中国大陆における「政府(王朝・皇帝)」と「バチカン教皇庁(ローマ教皇)」との「權威性」の問題は、本稿の元々の検討対象でもある「典札問題」そのものであり、その「解決」は大変な困難を伴

うものであることは歴史的にも明らかである。少なくとも清朝の「典札問題」は「宣教師追放」という形で「バチカン教皇庁側(特にイエズス会)」の「撤退」で収束している。当時は「地理学的な制約」「イエズス会自体のヨーロッパでの解散」などが背景となり、一応の収束を見たと言えるが、「グローバル化が進んだ現在」において、「地理学的制約」は無いと言っても過言ではなく、また「ローマ教皇」が自ら乗り出していることから、「中国政府とバチカン教皇庁とが直接対面する」状況でもある。更に、これまで「中国共産党政府」とは「断交」し、「台湾」と正式な外交を持つていたバチカン教皇庁が中国政府との合意に動くことは、「中国大陆内」で「板挟みであった(中国政府任命の司教とは関係を持つとうとしなかった) 信者」を無下にすることにになり、同時に「台湾の信者」をもないがしろにすると映るものでもある。このような状況であるため、「明朝清朝」を通して発生した「典札問題」を扱う資料検討としての本稿に、あえて「典札問題の現代的発生」という視点、また「中国(共産党政府)」と台湾におけるバチカン教皇庁との関係」についての小論を付加した次第である。この動きについては、「中国共産党が宗教に関する基本方針(宗務条例)」を改変しない可能性が高い現状で、これまで「中国共産党政府に弾圧され殉教した」聖人たち」をどのように取り扱うのか」など、様々な問題をはらんでいるため(2)、今後も随時検討していく予定である。

(1) 中国におけるキリスト教信者(カトリック、プロテスタント、政府管轄外の信者)の数については正確な統計がないが、少なくとも三〇〇〇万人から、多い場合は9000万人と言われている。(バチカンは二〇一四年に「中国の信者数(政府管轄外信者も含めて)が一億人に達した」と発表している。)

(2) この点については、例えば金以楓『興時俱進 中国共産党的宗教政策』(懷仁叢書7、證月刊雜誌社、2010年、166頁)では「1958年3月、在與梵帝岡最後一輪博奕之後、4月13日、中国天主教終於以實際行動公開駁回羅馬教廷的「無恥恫嚇」、武漢天主教會首度「自選自聖」兩名主教。各地前往參與祝聖典禮的八十二名神長、教友、聯合聲明「当前中国天主教與羅馬教廷的關係是兩個根本對立的政治立場問題、是敵我矛盾問題」。所以、中国天主教要「徹底擺脫羅馬教廷控制」、成為「獨立」「自主」「自辦」的教會」とし、中国共産党政府が「羅馬教皇庁」と袂を分かつて言及している。尚、この書籍には「1949年2月2日」から「1966年6月20日」までの『人民日報』から「天主教」関連の記事見出しが抜粋されており、共産党政府の「意向」を看取するのに簡便である。

【謝辞】

・ 本件はJSPS科学研究費補助金(課題番号16K02162 基盤C)の助成を受けた研究成果の一部である。(課題名「16世紀来華イエズス会士による異文化対応の諸相―「利瑪竇的規矩」の内実と展開―」)